

# 「伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン（案）」における パブリック・コメント結果概要について

## 1 パブリック・コメント実施の概要

### (1) 意見募集方法

伊勢市公報、伊勢志摩圏域市町ホームページ、伊勢志摩圏域市町広報誌、伊勢市行政チャンネル文字放送、伊勢市長定例記者会見

### (2) ビジョン（案）の閲覧場所（41箇所）

- ・伊勢市役所（1階市民ホール、企画調整課、総務課）
- ・伊勢市各総合支所地域振興課（二見、小俣、御菌）
- ・伊勢市役所各支所（神社、大湊、浜郷、宮本、豊浜、北浜、城田、四郷、沼木）
- ・伊勢図書館、小俣図書館、生涯学習センターいせトピア、二見生涯学習センター
- ・鳥羽市役所 企画財政課
- ・志摩市役所（市情報コーナー、企画政策課）
- ・志摩市役所各支所（志摩、大王、浜島、磯部）
- ・玉城町役場 総務課
- ・度会町役場 政策調整室
- ・度会町中央公民館
- ・大紀町役場 企画調整課
- ・大紀町役場各支所（七保、柏崎、錦、大内山）
- ・南伊勢町役場南勢庁舎 行政経営課
- ・南伊勢町役場南島庁舎 総合窓口
- ・南伊勢町役場各出張所（宿田曾、島津、鶯倉、中島）
- ・明和町役場 防災企画課

### (3) 意見提出の対象者

伊勢志摩圏域内に在住または通勤、通学している方など

### (4) 意見募集の期間

平成26年4月1日（火）から平成26年4月30日（水）

## 2 意見募集の結果

意見数4件

【内訳】①提出方法別（電子メール：3件、窓口提出：1件）

②住所地別（伊勢市内：3件、南伊勢町内：1件）

### 3 意見内容及び市の考え

NO.	寄せられた意見	市の考え
1	<p>すでに伊勢市は人口が流出しています。理由は「伊勢市は仕事が無い」といわれています。多気町の場合はシャープ工場、まごの店と成功しています。明和町もイオン(明ジャス)で成功しています。伊勢市も外宮周辺が急速に発展しているので観光を中心に成功しているといえます。しかし「銀座新道」はぜんぜん回復していません。外宮周辺の成功を学ぶ必要があります。ワンパターンの商売でなくて「新道の改革」「店の改革」「商売の改革」が不可避であると思います。これからは、近鉄のように「しまかぜ」「つどい」と観光に成功しています。伊勢市周辺もその方向で再考する必要があります。</p>	<p>消費者のニーズを敏感に察知した取組を進めることは大変重要であると認識しています。地域社会のコミュニティ機能が低下する中、商店街は地域のコミュニティとしての役割が期待されます。本市としましても、商店街の活性化を目的とし、商店街が取り組む空き店舗対策や賑わい創出づくりなどに対して支援を行っています。</p>
2	<p>伊勢志摩に生まれ、その地に定住を希望する人は多いと考える(伊勢志摩の県民性)。しかし、公務員や職員などの安定した職が少ないため、県外、市外に転出することが一般化していると感じている(私も愛知県で就職しているが、チャンスがあればUターン就職したいと考えているその一人であり、周囲にもそういった希望の声を聞く)。</p> <p>そのため根本的に就職率の改善を第一に考慮すべきだと考える(たとえば観光資源を活性化させるための職員の増加、法人の増設など)。</p> <p>子育てや生活環境に関しては、他の市町村と比べ、不自由は少ないと考える(自動車が必要な地域ではあるが)。</p> <p>伊勢志摩は住みたいけど安定した職がなく住めないというイメージである。</p>	<p>就職については、定住するのに必要な大きな要因のひとつであると認識しています。伊勢志摩定住自立圏においても企業立地の促進、中小企業における勤労者福祉制度の充実などの取組を複数の市町が連携して行っています。</p> <p>雇用については、職種や経験・資格などにおける求人ニーズと求職ニーズのずれによる、いわゆる雇用のミスマッチが課題となっており、その解消に向けての取組を検討したいと考えています。また、今後においても各市町それぞれの地域における取組とあわせ、伊勢志摩圏域における連携した取組について、引き続き検討します。</p>

NO.	寄せられた意見	市の考え
3	<p>人材育成の分野において、教職員研修の連携に関して明和町がはいっていないことはどうしてなのか？</p> <p>また青少年健全育成の合同研修会においても、明和町が連携市町村としてははいっていないのは何故なのか？</p> <p>職員の合同研修を行うのであれば、使用する行政文書類は統一した規格の物を行うことが望ましいが、行政文書の書式や形式の統一や保存期間や保存方法についての取り決めは、この伊勢志摩定住自立圏に含まれているのか？含まれていないのであれば、含めて欲しい。</p> <p>伊勢志摩定住自立圏は行政の連携ばかりだが、立法機関である議会の連携や交流についても含めて欲しい。</p> <p>伊勢志摩定住自立圏の議会に対して、議長または議会3役としての連絡会や交流会を開催するとか、各政策課題に対して委員長同士の連絡会や交流会を提案してほしい。</p> <p>伊勢志摩定住自立圏に定住するためには、雇用の確保が重要になる。</p> <p>合同就職説明会や雇用説明会の開催を希望する。</p> <p>今後、伊勢志摩定住自立圏市町村に定住を考えている人は、おそらく企業就職ではなく、個人事業主としての生活を想定していると思う。</p> <p>個人事業主に向けた伊勢志摩定住自立圏としての基本政策を打ち出して欲しい。</p> <p>今回の伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの意見募集は、伊勢志摩定住自立圏内にある高等学校に対しても募集を募ったのでしょうか？</p> <p>人材育成の点や今後の伊勢志摩定住自立圏で定住してもらおう住民を増やすためにも、中学生や高校生からの意見は重要に思います。</p>	<p>明和町は、教職員研修及び青少年健全育成研修については、松阪地域と連携して取り組んでいます。定住自立圏構想は、圏域内のすべての市町が同じ取組をすることは予定されていません。取組内容ごとに構成される市町に相違のある点が、従来の広域市町の連携形態との違いであり、連携を促進させる要因と考えられています。</p> <p>行政文書の書式や形式の統一、保存期間・保存方法については各市町が独自に定めており、定住自立圏の取組には含めていません。定住自立圏構想に基づく取組は、定住者の促進を進めることを目的とした取組について検討を進めています。行政文書の書式や形式の統一などを進める目的が、行政の効率化などの点にあると推察いたしますと、現時点において、検討する必要性は高くないと考えています。</p> <p>各市町における議会の連携については、それぞれの市町の議会事務局へ、提出していただいたご意見をお送りいたします。</p> <p>就職については定住するために必要な大きな要因のひとつであると認識しています。本市においては、就職説明会については、これまでも商工会議所と連携して実施してきています。雇用の確保に関する取組については、今後においても各市町それぞれの地域における取組とあわせ、伊勢志摩圏域における連携した取組について、引き続き検討します。</p> <p>個人事業主へ向けた基本政策とのご意見については、個人事業主の方への支援と推察し、ご回答いたします。個人事業主は、第1次産業、第2次産業、第3次産業すべてにおいて、職種を問わず存在する区分であると理解します。行政が支援を行う際は、その支援の目的が公共性を有していることが大切な要件となります。農業や漁業など公共性の高い分野における業種等に対する支援の実施や、人口定住を促進させるための政策誘導など、結果的には個人事業主の方への支援となる取組もあろうかと思いますが、直接的に個人事業主への支援に係る基本姿勢を明示することは困難であると考えます。</p> <p>若い世代からのご意見も大切であると認識しています。今回の意見募集については、特別に各高等学校長及び中学校長に対して生徒からの意見提出の依頼をしていますが、伊勢志摩圏域内に存する学校に在学する方も対象とし、実施しました。</p>

NO.	寄せられた意見	市の考え
4	<p>意見1. 「1. 医療・福祉」の項で挙げられているのは「休日・夜間応急診療所の維持運営」「病院輪番制の維持」「医療受診適正化の啓発」の3項に限られ、もの足りなさを感じられます。県の保健医療計画や地域医療ビジョン、市町の介護保険事業計画や地域福祉計画などがある中にて、本ビジョンで記述できる内容に限りがあることは承知しますが、わが国として急ぎ進められている地域包括ケアシステムについての言及は本ビジョンにおいても欲しいと思います。地域包括ケアシステムは市町単位で進められるのが基本であるものの、各市町単独では十分なサービス確保が困難な事業(例:24 時間対応の定期巡回・随時対応型訪問サービスなど)や、広域で考えるべき事業(介護保険施設等)などの課題を抽出し、関連の計画と整合性を持った検討が必要かと思われる。よって以下の文章を本文に含めることをご提案します。</p> <p>「伊勢志摩定住自立圏の域内において、地域包括ケアシステム構築を市町相互の協力をもって推進します。この推進においては関連の計画も踏まえ、必要な事項に関し市町間の協議、検討を進めます。」</p> <p>意見2. 図表 10 において、南伊勢町は医科診療所が 8 となっておりますが、東海北陸厚生局管内保険医療機関(2014 年 4 月 3 日更新)によると 6(うち 2 は閉鎖中)です。閉鎖中の診療所は長らくの閉鎖で、再開見込みも立っていないことより、登録数より実働数がより好ましく、「4」と表示すべきかと思えます。</p> <p>意見3. 21 頁「ア 生活機能の強化に係る政策分野 I 医療・福祉 (1)医療体制の確保」において、現状と課題が「軽症患者が二次救急を受診することにより、重症患者に対する迅速な対応に支障が生じている」とされ、連携市町の役割として適正な受診を「住民等への啓発」し、期待される効果として「安易な受診を抑制する」とあります。しかしながら、小生が南伊勢町で診療をする中、特に南島地区の要介護者らにおいては、救急車で受診はやむを得ないものの、入院不要として帰宅となった場合、夜中では帰宅することができず、日中においてもタクシーとバスを乗り継ぎ、時間や手間ばかりでなく経済的な負担も大きいと、むしろ重症例でも受診がためらわれる例をたびたび経験しており、受診抑制が一人</p>	<p>意見1 高齢社会において、誰もが住み慣れた地域で安心して最後まで暮らすことができるために「地域包括ケアシステムの構築」は重要な課題であると認識しており、現在各市町で取り組んでいる状況です。</p> <p>地域包括ケアシステムの構築にあたりましては、市、町の行政界を越え、課題への対応や連携が必要であると考えられますので、ご意見を参考に今後検討します。</p> <p>意見2 掲載している「【図表 10】伊勢志摩圏域における市町別医療施設数及び病床数」につきましては、平成 25 年 3 月 31 日時点の数値です。伊勢保健所及び松阪保健所から情報提供を受け、平成 26 年 3 月 31 日現在の数値に変更します。また、休止施設についても括弧書きで表記します。</p> <p>意見3 それぞれの地域における医療を取り巻く課題には差異があることについて、具体的な状況をご提示していただき、理解させていただきました。ご指摘のとおり該当項目の記載にあたりましては、誤った解釈を避けることを考慮し、ご提案いただいた文案を踏まえて、以下のとおり記載いたします。しかしながら、地域医療における連携体制の強化については、県の医療計画の中で二次医療圏である南勢志摩保健医療圏として県が中心となり連携を促進することとなっております。また、住民への啓発については、各市町がそれぞれの地域医療の状況を適切に把握しながら、地域の実状にあった啓発に努めてまいりたいと考えておりますのでご理解いただきたく存じます。</p> <p>○取組事項 医療受診適正化の啓発</p> <p>○現状と課題 圏域においては、地域の医療機関が連携し、医療機能に応じた医療機関の役割分担が進められている。軽症患者が二次救急を不適切に受診する例などにより、本来の医療機能を十分発揮できない場合が生じている。</p> <p>○事業の概要 住民に対し、救急時等における病状に応じた医療機関の適切な受診や「かかりつけ医」を持つこと等の啓発を地域の実状を考慮し広報、CATV、救急・災害を考える集いなどで行う。</p> <p>○期待される効果</p>

<p>歩きしてしまうことを危惧します。医師として救急の適正受診は重要な課題で、対策を進めるべきことはよく承知していますが、本ビジョンにおいては、中心市と周辺市町の状況の差を十分に考慮した記述を求めます。</p> <p>よって、本項は以下への変更をご提案します。</p> <p>取組事項:「かかりつけ医」と医療機能に応じた医療機関による地域医療連携体制強化</p> <p>現状と課題:軽症患者が二次救急を不適切に受診する例などにより、本来の医療機能を十分発揮できない場合が生じている。また地域医療連携を強化し、医療機能に応じた医療機関の役割分担が進められている。</p> <p>事業の概要:圏域内の医療ニーズと医療資源を適切に把握する。その上で住民に対し、救急時等における病状に応じた医療機関の適切な受診や「かかりつけ医」を持つこと等の啓発を広報、CATV、救急・災害を考える集いなどで行う。</p> <p>期待される効果:「かかりつけ医」を持つことにより、平時の健康管理とともに、救急時においても適切な対応ができる体制整備が進められる。かかりつけ医と最寄の医療機関、および救急病院の役割分担についての理解も住民に広がり、適切な受診が促される。</p>	<p>「かかりつけ医」を持つことにより、平時の健康管理とともに、救急時においても適切な対応ができる体制整備が進められる。かかりつけ医と最寄の医療機関、および救急病院の役割分担についての理解も住民に広がり、適切な受診が促される。</p>
---	---